

民芸運動の草創期を記録した映画フィルムの修復に、カナダ人の映像作家が取り組んでいる。1930年代の農村風景や日本人の暮らしぶりなども収められ、DVDにまとめて販売する計画もある。

民芸運動は、思想家の柳宗悦(1889～1961年)らが大正時代末期に提唱し、無名の職人の作った陶磁器、染織などの実用品に美を見いだした。

そうした活動の様子を、柳らと交流のあった英国人陶芸家のバーナード・リーチ(1887～1979年)が34～35年、16ミリフィルムで撮影。そのフィルムを映像作家のマーティ・グロスさん(66)が譲り受けた。グロスさんは、70年

「民芸運動草創期の貴重な記録を、一人でも多くの人に届けたい」と語るグロスさん(東京都内で)



民芸運動草創期の記録フィルム カナダ人映像作家が修復

以降、度々来日し、文楽を取材した記録映画「文楽 冥途の飛脚」を製作するなど日本文化に対する造詣も深い。

映像には栃木県益子町で陶器を作る職人らの様子に加え、地元の人たちがこいのぼりを揚げたり田植えをしたりする風景も収められ、当時の暮らしぶりを知る貴重な資料にもなっている。また、民芸運動に参加し、リーチとも交友のあった陶芸家の浜田庄司(1894～1978年)にインタビューした映像などもある。

もっとも、フィルムは劣化が進み、グロスさんがデジタ

ル化して修復や編集を行う。撮影された場所や人物を特定するため、年数回来日し、関係者らに聞き取り調査を行っている。7月中旬にも来日し、益子町を訪ねる予定だ。

グロスさんは「無名の職人の生む美しさや力強さが民芸の魅力。国際的な関心も集めている、民芸運動の起源を多くの人に知ってほしい」と話している。修復したフィルムは、DVDにまとめて販売する計画もある。

問い合わせは、グロスさんの日本での広報を担当するQPR(090・9330・0035)へ。